令和４年度　東野小学校報　　２.24 号

ひがしの

恵那市教育委員会指定 教育研究推進校 中間まとめの会

校長　岩井（いわい）　裕美（ゆみ）

２月の時候の挨拶の一つに、「梅のさわやかな香りが漂うこの頃」というものがあります。今、校長室では職員が飾ってくれた蝋梅からいい香りがして、少しずつ春の柔らかな気配を感じます。みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。

やさしいおおかみさんになりきって

東野小学校は令和２年度より３年間の教育研究推進校の指定を受けており、「特別の教科道徳」の授業を要として学校の教育活動全体で行う道徳について研究をしています。来年度研究発表会としてグループ校の先生方７０～８０名をお招きし、授業を公開します。前年度は中間まとめの会を開催することになっており、先日、恵那市教育長岡田庄二様をはじめ、１２名の教育委員会の関係者をお迎えしました。低学年代表として１年生が、高学年代表として６年生が授業を公開し、研究主任が研究の進捗状況を報告しました。当日、１年生は在籍１１名中５名が欠席というハプニングもありましたが、１年生、６年生それぞれが普段の授業で身に付けてきた力を発揮し、代表の責任を果たしてくれました。

卒業前に友達について再度考える

教育委員会の皆様からは、子供たちがあたたかい挨拶ができること、全職員で研究に向かうことができていること、職員の明るい雰囲気が子供たちによい影響を与えていること、子供たちが友達の話をよく聞き、しっかり頭を働かせて「考える道徳」ができていること、何より、子供たちが道徳が楽しいとアンケートにこたえていることについて、実践の確かさを褒めていただきました。

日本全国で起きた深刻ないじめの本質的な問題に向き合うため、そして予測困難な時代を生きる子供たちに、自らの人生や社会における、答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」を得るための資質・能力を育成するために道徳教育は大きな役割を果たすとして、平成３０年から道徳は「特別の教科 道徳」として教科書を使って学ぶ「教科」になりました。子供たちは、道徳は答えに間違いがないから色々考えられて楽しい、と言います。友達と考えが違った時、そういう考え方もあるのか、と自分の考えが広がるから楽しいと言います。これからも、人としてよりよい生き方について考え合うことができるこの時間を大切にするとともに、気付いたよりよい生き方について実践する場を工夫したいと思っています。